



今年4月より事務所長で参りました野津です。
既に新しい年度が始まる中、皆さんも心機一転、新しいことにチャレンジされたり、同じことでも気持ちをリフレッシュして取り組まれていることもあるかと思います。
我々高山国道事務所も、今回の本誌でご紹介する、記者さんとの意見交換会等新しい取り組みにもチャレンジしながら、飛騨地域の道路環境をよりよくしていきたいと思っています。
また4月には、飛騨地域で華麗で勇壮なお祭りが多数開催され、本当に豊かな歴史文化を私自身実感致しました。多数の方に来ていただきこの飛騨地域の良さを知っていただくため、そして地域の方々にも安全にご利用いただくための道路の整備、管理に向けて職員一同頑張つて参ります。
引き続き、よろしくお願いいたします

高山国道事務所事業概要等説明会を開催

高山国道事務所では、「広報力の強化」・「報道記者と顔の見える関係」を目的として、高山記者クラブ所属の各記者及び高山市を中心とした地域に密着した地方紙、ケーブルテレビの記者と、「高山国道事務所事業概要等説明会」を開催しました。
当事務所としては、初めての試みでしたが、現場見学・事業概要説明・広報計画説明・意見交換を通して、活発な意見交換等をし、相互理解が深まり、今後の広報活動に大いに役立つものとなりました。



掘削を終えた上野第1トンネル(仮称)で覆工中の箇所を説明



掘削中の上野第2トンネル(仮称)で本坑の作業機械(ドリルジャンボ)について説明



現場見学後、事務所会議室で事業概要の説明、意見交換会を開催

中部縦貫自動車道の高山ICから丹生川IC(仮称)間で工事中の上野第1、第2トンネル(仮称)を現場見学していただいた後、事務所の会議室においてH29事業概要を説明し、その後、意見交換を行いました。
参加いただいた記者の方々からは記者発表資料等の内容に関して、貴重なご意見、アドバイスをたくさんいただきました。
これらを今後の事務所の仕事内容に関する情報発信や、各種イベント等の情報提供などに生かし、分かり易く、且つたくさんの方に興味を持っていただけるような内容の広報に心掛けたいと思いますので、事務所ホームページやニュースレターなど是非ご覧ください。

現場見学はこの他にも事務所ホームページで「旬な現場」として随時募集しておりますので、是非ホームページをご覧ください！

飛騨高山高校の生徒による春の環境学習 ～高山西にビオトープ“飛騨の森再生”～



今年で13年目を迎えました

平成29年4月26日(水)に飛騨高山高校環境科学科3年生5名が、高山西インターチェンジ内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”において、春の環境学習を行いました。ビオトープでは、春に見られる水生昆虫(トンボのヤゴ等)の捕獲・識別実習を行いました。

実習ではトンボのヤゴやミズカマキリ、マツモムシといった水生昆虫に加えてアカハライモリ、ドジョウといった生物も見られ、これらの生物の特徴や生息環境について学習を行いました。

本学習は同校と高山国道事務所が締結した「ビオトープの維持管理に関する協定」に基づき定期的に実施しているもので、環境学習を行うことで、自然環境調査に必要な基礎的な知識と技術の習得および飛騨の自然環境の習得について理解を深めています。また、これまでの同校との協働による継続的な維持管理活動により、貴重な植物が増殖又は再確認されるなど、様々な動植物の生息・生育環境が改善又は維持されています。



【ビオトープ内の調整池】



【水生昆虫(トンボのヤゴ等)の捕獲】



【捕獲した水生昆虫(トンボのヤゴ等)の識別】



【確認したドジョウ】

飛騨高山高校の生徒によるギフチョウの保全対策 ～高山清見道路にてモニタリング調査を行いました～

中部縦貫自動車道高山清見道路4工区（高山IC～丹生川IC【仮称】）建設予定地内には、絶滅のおそれのある重要な種が確認されており、高山国道事務所では、これらの重要な種に配慮するため、移植など様々な保全対策を進めております。

平成26年度、建設予定地内で確認された重要な種であるギフチョウの卵がついたヒメカンアオイ（ギフチョウの食草）を、飛騨高山高校と高山国道事務所が協働して移植作業を行いました。

以後、毎年移植後のモニタリング調査を実施しており、今年度も5月15日（月）に飛騨生態調査研究室代表の大森清孝先生と「ギフチョウの翔ぶ里山の自然を考える会」会長の鈴木俊文先生を講師としてお招きし、飛騨高山高校環境科学科2年生6名が、保全対策として森林内に移植したヒメカンアオイの生育状況とギフチョウの産卵状況の調査を行いました。

生徒たちは、講師の方々にギフチョウとヒメカンアオイの生態について教わりながら調査を実施し、ヒメカンアオイの葉を1枚1枚慎重に裏返して8卵塊91個の卵を確認しました。移植したヒメカンアオイの生育範囲の広がりや、ギフチョウの産卵傾向と気象条件の関わりを確認した生徒たちは、自然の営みについて様々なことを学んだようでした。

ギフチョウの生息環境を維持するために、今後も飛騨高山高校と協働して保全対策を行っていきます。



【ヒメカンアオイについて説明する鈴木俊文先生】



【ヒメカンアオイの生育状況調査】



【ギフチョウの産卵状況調査】



【確認したギフチョウの卵塊】



●ギフチョウ

- ・環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）
- ・岐阜県レッドリスト：準絶滅危惧（岐阜県内で存続基盤が脆弱な種）

※「レッドリスト」とは、絶滅のおそれのある野生生物について記載したデータブックです。日本全国を対象としたものは環境省が、岐阜県内を対象としたものは岐阜県が作成・公表しています。

H24.4撮影

